

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E1121013		ピアノ (Piano)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	1	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 田中 星治 E-mail tanaka@oita-u.ac.jp 内線 7618											
授業の概要	ソナチネ程度のピアノ曲を実技指導し、簡単な歌唱教材の伴奏に対応できる演奏能力を身につける。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 中学校の音楽教員に必要なピアノの技法を習得することができる																	
目標2 ピアノ演奏に必要な基本的な奏法を習得することができる。																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 ガイダンス																	
2 ピアノの構造について																	
3 ピアノ演奏の基本的なタッチについて																	
4 ピアノを演奏する上での姿勢について																	
5 楽譜の効果的な読み方について																	
6 楽譜におけるフレーズの取り方について																	
7 楽譜におけるアーティキュレーションについて																	
8 楽譜における強弱の表現法について																	
9 ピアノのペダル奏法について																	
10 合理的な指使いについて																	
11 メロディーと伴奏のバランスについて																	
12 和音の調和した響かせ方について																	
13 演奏上の楽曲の構成について																	
14 歌唱教材をピアノ伴奏で表現するための工夫																	
15 実技試験に向けてのまとめ																	
ラーニング ポイント グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	ピアノ演奏を通して、音楽表現に必要な演奏技術を身につける。さらには楽曲の表現の可能性を模索し、作品を通して受講者の主体的な演奏技法を引き出すことを目指す。				工夫 その 他の	ピアノ実技なので、個人指導、およびグループ指導を行い、学生とのディスカッションの中で、解釈の可能性を探る。										
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学修	与えられた課題を前もって準備する。ハノンや、指のトレーニングのための教材を活用する。(10h)															
	事後 学修	授業で行った内容を再確認し、事後の練習に生かす。(10h)															
教科書	任意のピアノソナチネ、またはソナタの楽譜。(出版社は問わない)																
参考書	そのつど指定する。																
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	授業への取り組み	40%															
	最終試験	60%															
評価について	評価については、具体的な到達目標で掲げた内容について実技試験で評価する。 到達目標に向けた準備の過程についても、評価の中に盛り込む。																
注意事項	毎日の練習の積み重ねが重要。																
備考																	
リンク																	
	URL																